

輸出事業計画

株式会社芦別 R I C E 品目：米

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- 日本の人口減少に伴う将来の国内需要の減少を見据えて、海外も含めた販路の多角化により、農業者の安定収入確保を目指している。
- 海外における日本食ブームを追い風として、“北海道・芦別産米”の PR をしていきたいと考えたことから、平成 27年より輸出の取組を開始。令和 2 年に戦略的輸出基地の指定を受けたことを機に地域の農業者へ参加を呼びかけ、輸出に取り組む農業者を増やして輸出向けロットを確保している。
- 芦別市を中心に、農業者と連携して輸出向け生産の拡大、生産性向上、生産コスト低減、産地ブランディング、輸出先国・地域の多角化、販路の拡大など、輸出産地の形成及び育成に取り組んでいる。
- 海外ニーズに対応した生産・流通体系への転換に取り組み、芦別産を含む北海道産農産物の生産基盤の維持・強化を図る大規模輸出産地を目指すことを目的に、令和 7 年 2 月に芦別 RICE 北海道米輸出拡大推進協議会を設立。

【課題】

① 生産

- ・ 新市場開拓米の面積を拡大する一方で、国内需要にも応える必要もあり、限られた水田面積においてどのように生産を行っていくのか、地域横断的に解決するための体制・組織の構築が必要。
- ・ 海外需要者が求める品質基準や残留農薬基準などの輸入国規制をクリアした米を生産する必要があるため、新市場開拓米の水稻生産者個々の栽培技術の底上げも求められる。
- ・ 更なる安心・安全な生産体制の構築及び外国産米に対する価格競争力を確保するため、品質・安全性・食味の向上と低コスト生産、生産性向上、省エネ化の両立を目指す必要がある。
- ・ J クレジットに取り組むための温室効果ガス削減技術の導入、スマート農業技術導入による農業負担軽減を図る必要がある。
- ・ 品質・食味の向上に関しては、外部機関で食味を測定するのではなく自前で測定を行い協議会内でデータを管理・フィードバックできる体制が必要。
- ・ また、品質・食味の向上に関しては、外部機関で食味を測定するのではなく自前で測定を行い協議会内でデータを管理・フィードバックできる体制が必要。
- ・ 新市場開拓米の生産活動に活かすため、生産管理のデータ化により、生産段階から消費者へ届くまでの流通情報を農業者等に共有する仕組みが必要。

② 流通

- ・ 輸出拡大に向けて集荷量拡大を図る必要があるが、自社倉庫のみでは保管能力が不足しており、集荷業務等におけるマンパワーの確保も必要となる。

③ 販売

- ・ 海外において需要のある“ななつぼし”の輸出を更に拡大するため、“北海道・芦別産米”としての販売戦略が必要。
- ・ 欧州向けの精米輸出にあたり、精米工程における品質確保のため、食品安全マネジメントシステムの国際規格である FSSC22000 認証の取得に向けた施設整備が必要。

輸出事業計画

株式会社芦別 R I C E 品目：米

2. 輸出事業計画の取組内容

① 生産

- ・ 地域内における新市場開拓米の水稲作付面積の拡大を図るため、生産者や地域農業再生協議会との取組計画届出、コメ新市場開拓等促進事業等に係る連携を通じて、芦別RICE協議会として、水稲作付面積確保及び新市場開拓米の作付増に取り組む。
- ・ 新市場開拓米の水稲生産者の栽培技術の向上について、植物残渣を用いた有機高吸水性ポリマーの利用に係る研修の受講及び輸出推進体制の先進的モデルの現地視察を実施。
- ・ 病害虫発生予察情報を基にした適期防除や、土壌診断/生育診断の結果を踏まえた施肥の徹底など農業者への情報共有や技術支援を通じて機動的改善を施すことにより、安定した収量確保、コスト削減と品質・食味の向上に取り組む。
- ・ 米生産における温室効果ガス削減を図るため、稲刈り後の秋起こしによる稲わらの早期すき込みによるメタンガス発生の抑制に取り組む。
- ・ 品質・食味の向上のため、食感測定器をリースにより導入し、出荷前に精米品質を測定・管理する
- ・ 農機具メーカーと連携し、田植同時除草剤散布機、農薬散布用ドローンなど生産性向上に寄与する機械を順次導入することにより、生産コスト削減に取り組む。
- ・ 高密度播種について、育苗資材の削減や育苗に係る労働力の削減効果を農業者へ情報提供して取り組みを拡大し、省力化、生産コスト削減を目指す。
- ・ 生産管理のデータ化を行い、生産から消費に至るまでの流通情報をWEBで一元的に管理することにより、在庫管理の効率化、消費動向の把握、消費者からのフィードバック等を通じて、海外の需要等に応じた生産体系の構築、生産意欲の向上等に繋げる。

② 流通

- ・ 道内流通業者、倉庫会社等と連携して集荷・保管の分業化を推進するとともに、定温倉庫の整備を行う。
- ・ 集出荷業務等のマンパワー確保のため、新たにコレック・ローリフトトラックをリース導入し、少人数かつ短時間で荷役業務を実施する。

③ 販売

- ・ 取引商社と連携して現地マーケットのニーズ、消費動向等を農業者へ情報提供を行い、マーケットインの発想による需要に応じた生産体系の構築等を通じて“北海道・芦別産米”の輸出先国・地域の多角化及び販路拡大を図る。
- ・ 精米の輸出について、“ななつぼし”の特徴・強みを現地の需要者に向けてプロモーションビデオ等で発信し、安心・安全・良食味の“北海道・芦別産米”としてのPR活動を実施する。
- ・ FSSC22000認証を取得したため、欧州向けをはじめとして輸出先国・地域の多角化及び販路拡大を目指す。

④ 輸出拡大、マーケットインの発想の更なる深化等

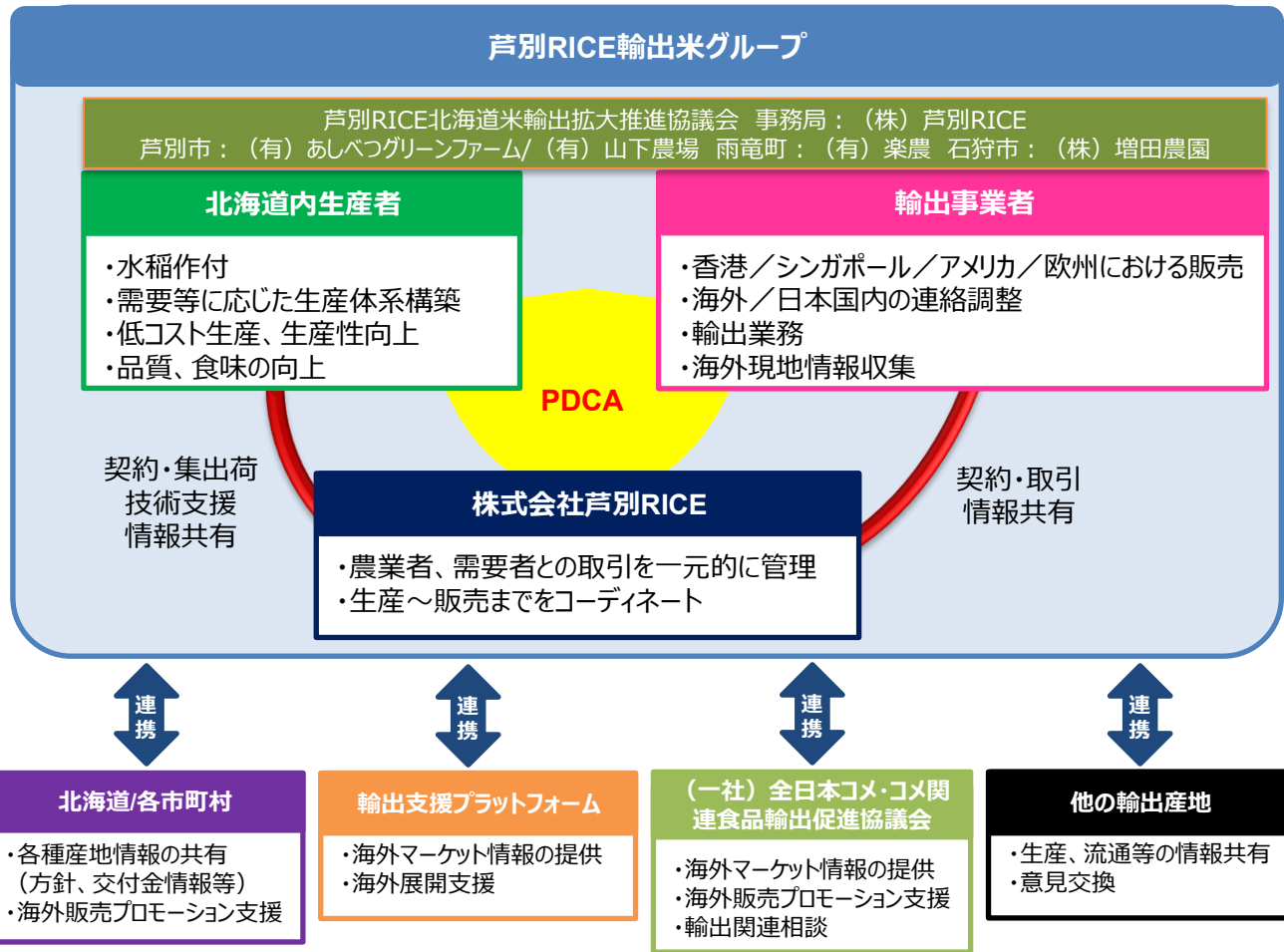
- ・ 当社の取組を道内外の産地及び輸出支援プラットフォームとの連携並びに産地間の横展開することによる発展的改善やマーケットインの発想による輸出の更なる深化、マーケットメイクなど、“北海道・芦別産米”の強みを活かした輸出拡大・旗手となる産地を目指すため、フラッグシップ輸出産地の認定取得を目指す。

輸出事業計画

株式会社芦別RICE 品目：米

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

- 生産から販売に至るまでコーディネートを行うことでPDCAサイクルの好循環を図る。
- 輸出事業者と綿密に連携することにより、現地マーケットのニーズ、消費動向等を農業者へ情報提供を行い、ニーズ等に応じた生産体系を構築する。
- 行政機関、公的機関等と綿密に情報共有を行い、官民一体となって輸出産地の形成・育成を行う。



4. 輸出目標額

輸出品目：コメ

		現状 (令和6年12月期)	目標年 (令和12年12月期)
地区： 空知	販売額(千円)	209,455	230,000
	輸出量(t)	1,286	1,376
	輸出先国	香港、アメリカ シンガポール	香港、アメリカ シンガポール、欧州